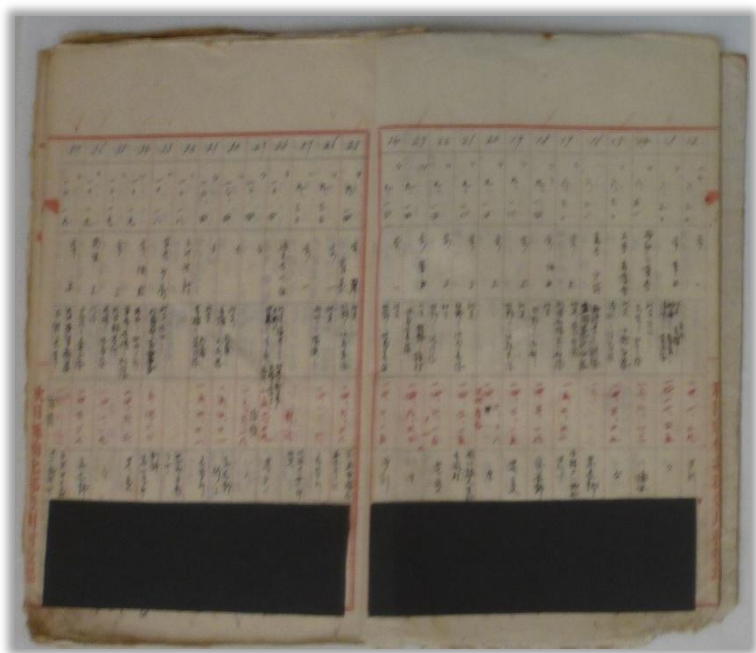


戦争と銃後の生活



応召軍人名簿 附入営兵 豊川村役場

昭和12年7月7日に発生した
盧溝橋事件をきっかけに、日中
戦争に発展したことを受けて、
兵役法のもと大規模な召集が始
まった。

昭和12年7月以降 中仙町役場文書



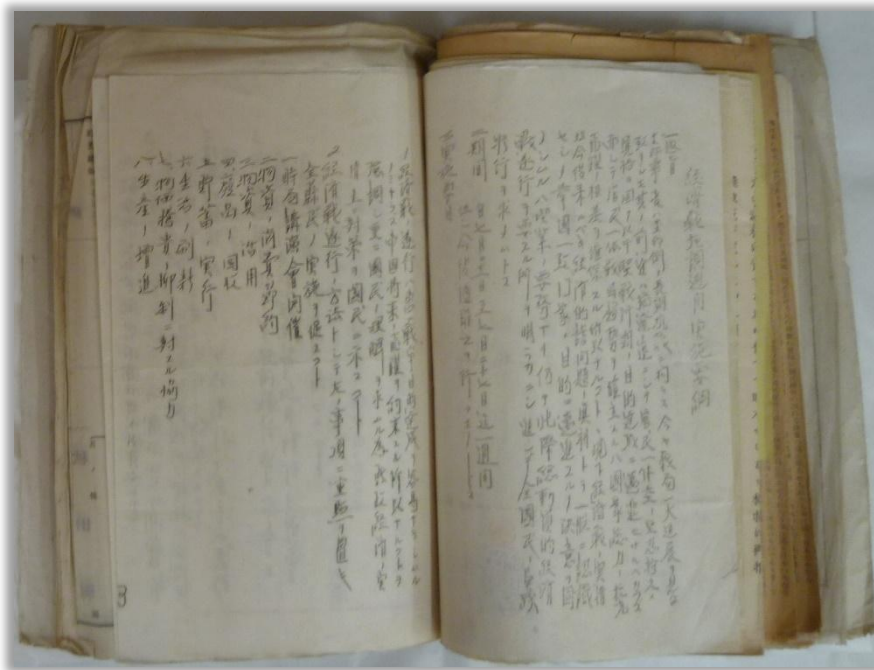
日中戦争へ出征する前の村の壮行会
松田池田家所蔵



出征前の池田泰蔵氏
松田池田家所蔵



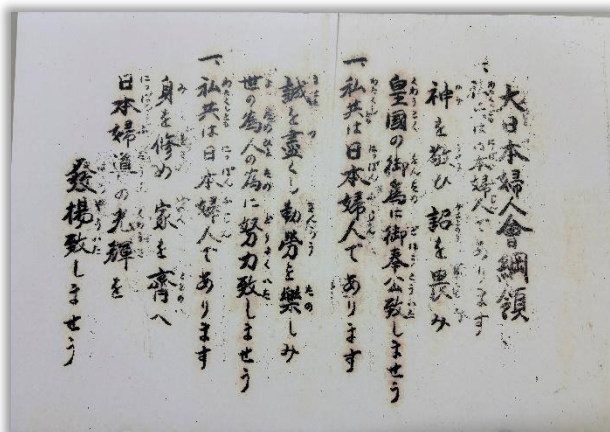
池田家門前での記念撮影
松田池田家所蔵



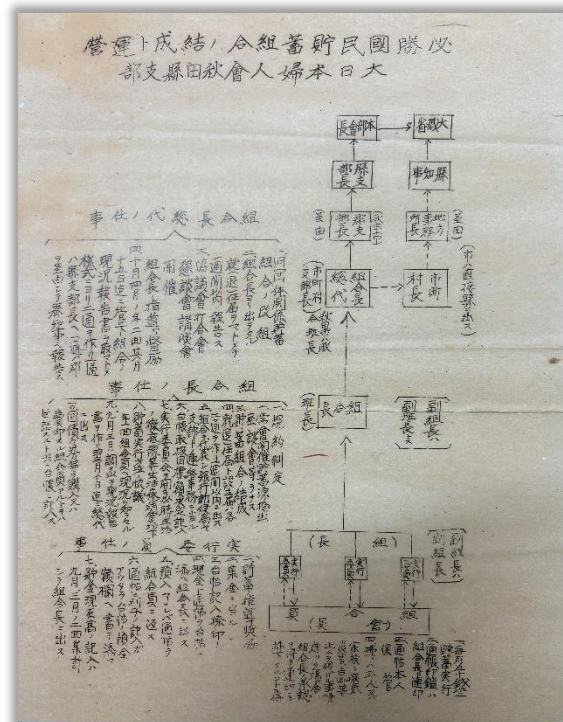
国民精神総動員書類（昭和 12 年）

国民精神総動員貯蓄奨励運動についての通知が綴られている。町内会や部落会において貯蓄運動を実施するよう促している。この結果、大日本婦人会でも貯蓄運動が行われた。

大沢郷村役場文書



大日本婦人会綱領（昭和）



必勝国民貯蓄組合ノ結成ト運営

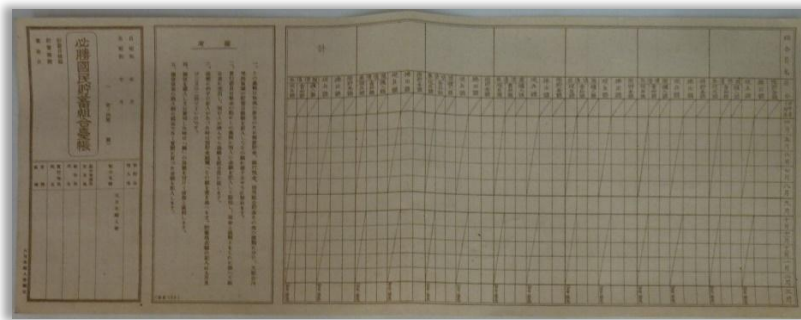
（昭和） 平瀬家資料



必勝貯蓄ヲ必要トスル一例図解

国民が貯蓄することによって、政府が発行する国債を日本銀行が現金化し、そこで得た現金によって軍需品等が購入され、購入

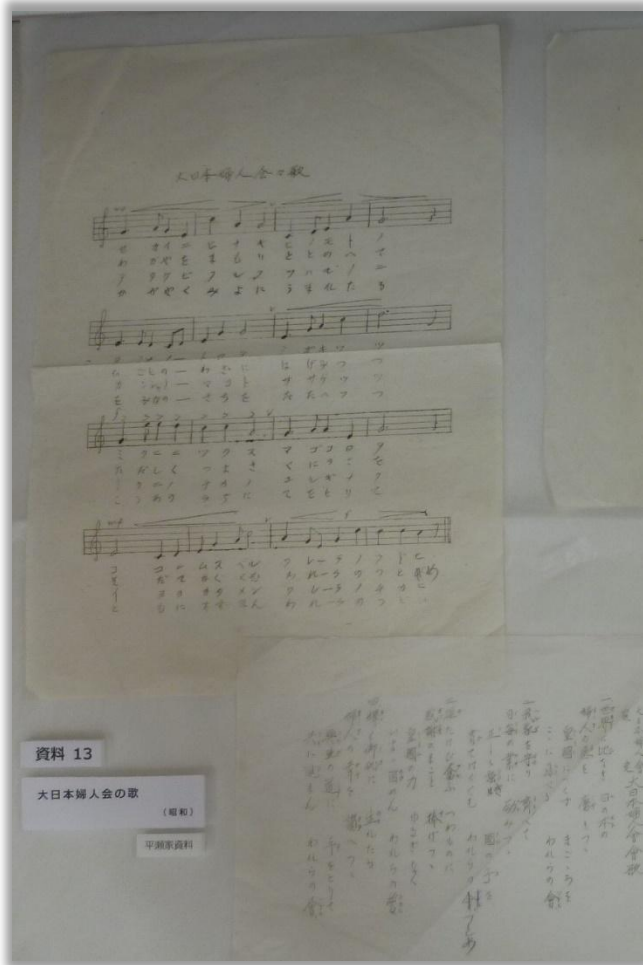
代金が国民へ支払われるという循環を図解化している。（昭和） 平瀬家資料



必勝国民貯蓄組合台帳

国民精神総動員貯蓄奨励運動をうけて、各地の大日本婦人会では郵便局や銀行等の金融機関への貯蓄を奨励するために、預貯金額や国債購入額等を管理する台帳を発行した。

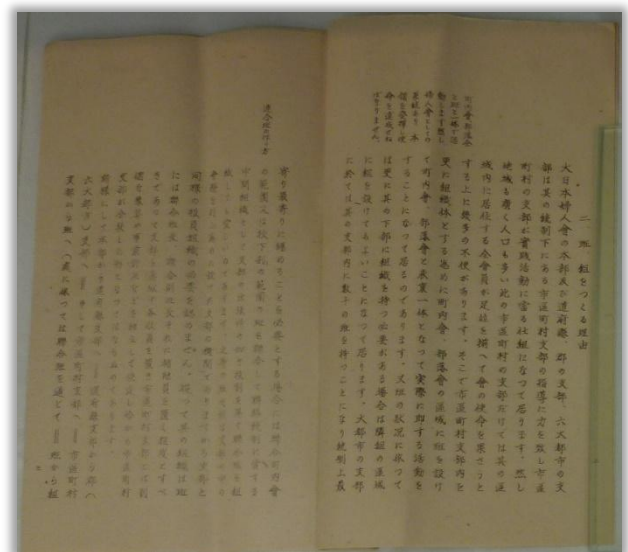
(昭和) 平瀬家資料



大日本婦人会の歌

大日本婦人会選定の大日本婦人会の歌の歌詞と楽譜。

(昭和) 平瀬家資料



班及び組のつくり方と其の働き方

大日本婦人会秋田県支部

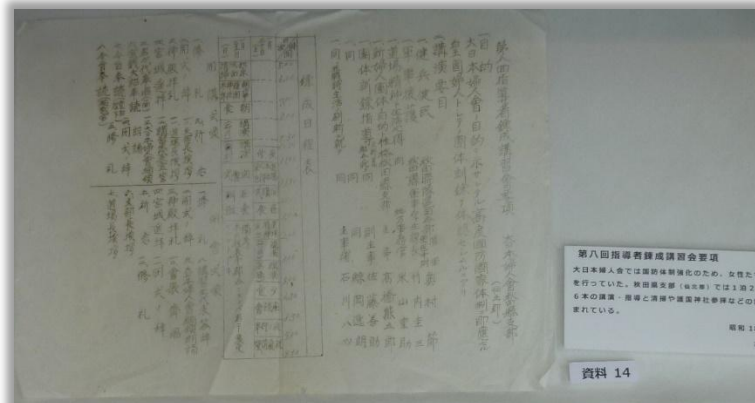
大日本婦人会の市区町村支部が実践活動を行うにあたって、支部だけでは区域内的の全会員をまとめることが難しいため、町内会・部落会の単位で班を設けた。また、班の下部に組織が必要な場合には、隣組の単位で組を設けてもよかった。

昭和 17 年 11 月 平瀬家資料

必勝国民貯蓄組合指導実施事項			
指導事項	指導方法	指導時期	指導場所
1. 貯蓄の重要性の啓蒙	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
2. 貯蓄の奨励	郵便局・銀行等の金融機関と連携する	毎月1回	郵便局・銀行等
3. 貯蓄の記録	必勝国民貯蓄組合台帳を使用する	毎月1回	町内会・部落会
4. 貯蓄の報告	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
5. 貯蓄の表彰	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
6. 貯蓄の相談	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
7. 貯蓄の普及	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
8. 貯蓄の発展	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
9. 貯蓄の継続	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会
10. 貯蓄の向上	町内会・部落会の単位で行う	毎月1回	町内会・部落会

必勝国民貯蓄組合指導実施事項 (大日本婦人会秋田県支部)

昭和 18 年 平瀬家資料



第八回指導者錬成講習会要項

大日本婦人会では国防体制強化のため、女性たちの団体訓練を行っていた。秋田県支部（仙北郡）では1泊2日で行われ、6本の講演・指導と清掃や護国神社参拝などの鍛錬日程が組まれている。

昭和 18 年 1 月 平瀬家資料



第八回指導者錬成講習会出席者名簿

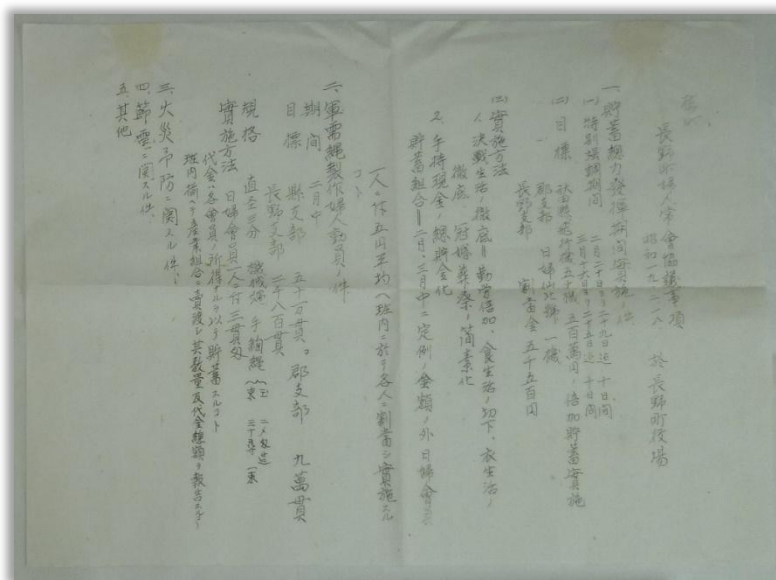
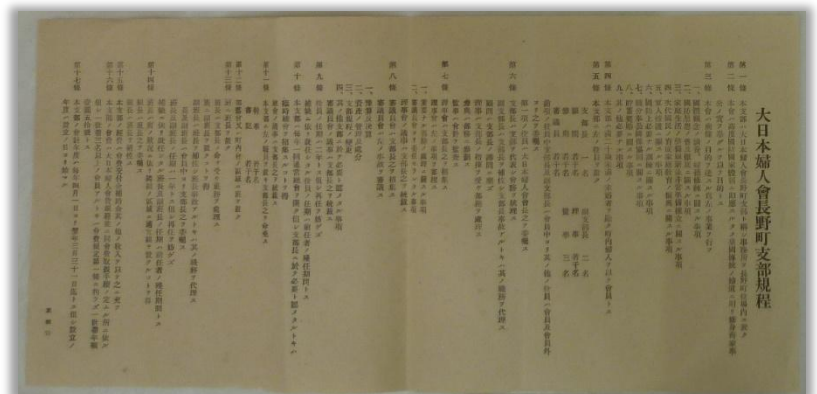
要項には仙北郡とあるが、仙北郡のうち現在の仙北市、美郷町の一部と、大仙市のうち東側の太田・仙北・中仙・大曲の一部の女性たちが参加した。

昭和 18 年 1 月 平瀬家資料

大日本婦人會長野町支部規程

大日本婦人会の長野町支部事務局は長野町役場内に置かれ、実施事業として銃後の女性の役割を担うための修練や家庭教育・国防訓練など9つの事項が掲げられた。また、班と組の組織についても定められている。

昭和 平瀬家資料



長野町婦人常会協議事項

長野町婦人会では、貯蓄総力発揮期間を設け、決戦生活の徹底や手持ち現金総貯金化などを掲げて長野支部で5千5百円の貯蓄を目指した。そのほか軍需繩製作に人員が動員されている。

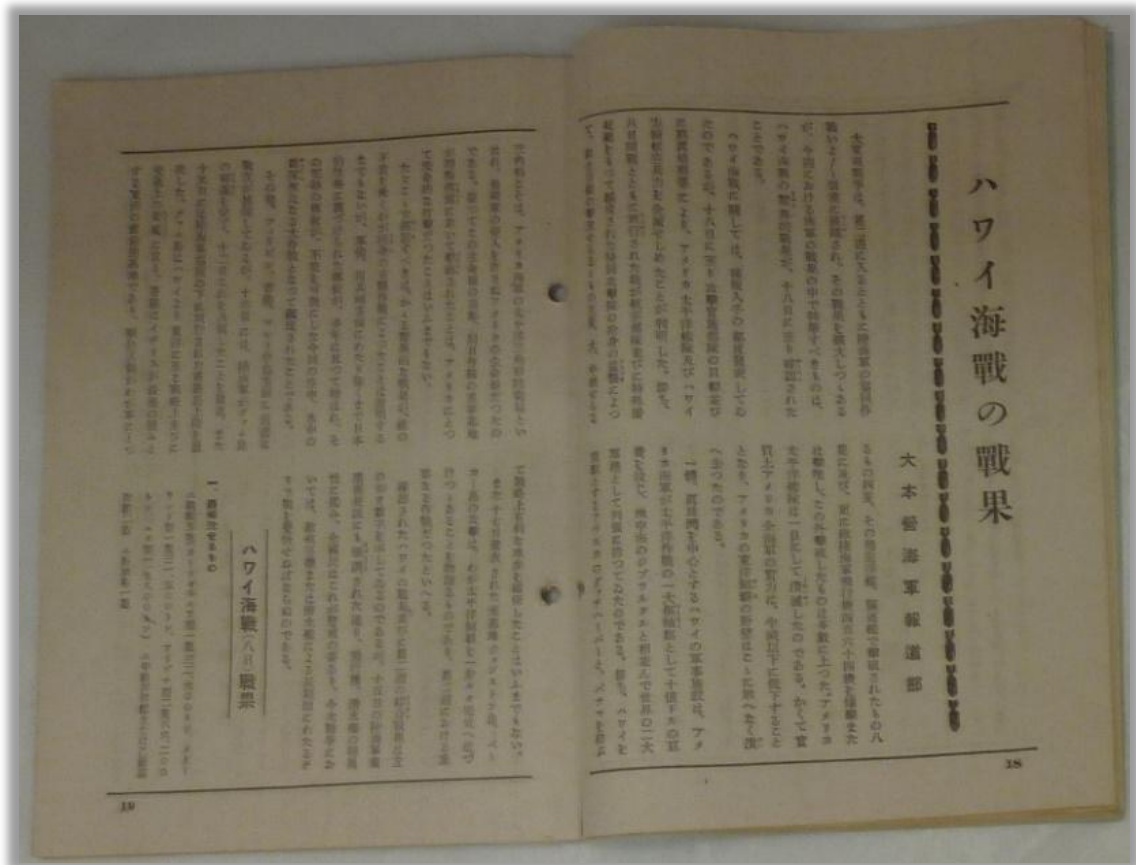
昭和 19 年 2 月 18 日 平瀬家資料

アジア太平洋戦争

昭和6（1931）年の満州事変を発端として日本が満州国を建国し、中国への侵略を目的とした日中戦争へ発展しました。これを契機に昭和13（1938）年に「国家総動員法」を制定し戦時体制を強化すると、アジア地域を西欧諸国の植民地支配から解放し、アジアの独立と日本を中心とする新たな支配秩序構築を目指して、日本は「大東亜共栄圏」の名のもとアジア侵略を開始しました。

昭和16（1941）年12月8日、日本軍がハワイ真珠湾を攻撃し、太平洋戦争へ突入します。日本軍はアッツ島、サイパン島、硫黄島で玉砕、アメリカ軍による国内への爆撃から沖縄戦へ展開、そして広島・長崎への原子爆弾の投下を機に日本は降伏し、昭和20（1945）年8月15日に終戦の日を迎えました。

秋田県内では、終戦間際の8月14日夜から15日未明にかけて、土崎精油所を標的とした土崎空襲があり、死者250人以上を出しています。

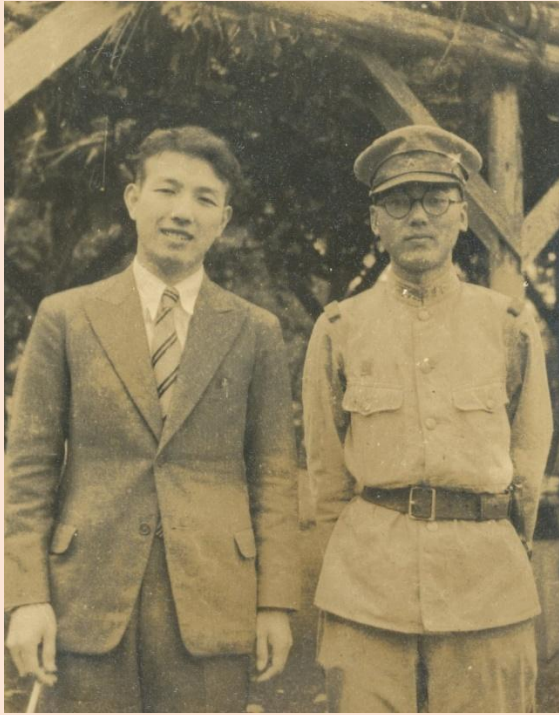


情報局編輯 週報

昭和16年12月8日にはじまったハワイ真珠湾攻撃の戦果が24日には掲載され、アメリカ太平洋艦隊とハワイ方面航空兵力を全滅させたと報告されている。しかし、実際には一時的に戦力を喪失せしめたものの、追撃がなかったため、結果、大きな打撃とはならなかった。ここから日本はアジア太平洋戦争へと突入していくことになる。

昭和16年12月24日号

渡部分水家資料



平瀬真一氏（写真右）
終戦後シベリア抑留となり、そこで
亡くなっている。

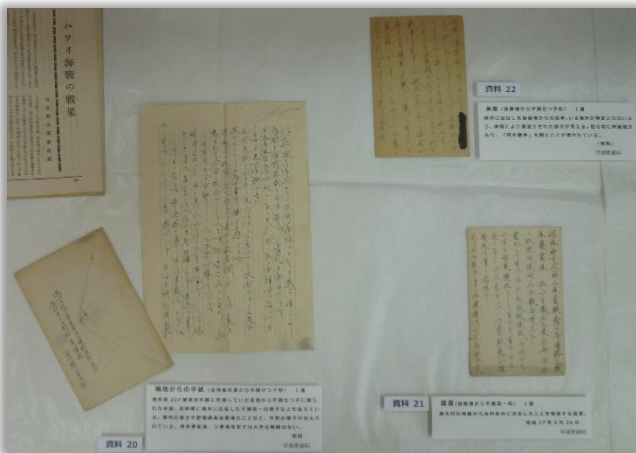
平瀬家資料



寄せ書の日の丸（平瀬君宛）

出征の際に贈られた友人などからの激励
の寄せ書。

昭和 平瀬家資料



葉書（後藤博から平瀬真一宛）

藤木村の後藤から兵科歩兵に決定し
たことを報告する葉書。

昭和 17 年 9 月 26 日 平瀬家資料

葉書（後藤博から平瀬せつ子宛）

満州に出征した後藤博からの返事。
いる場所が特定されないよう、検閲
により黒塗りされた部分が見える。
駐屯地に映画館があり、「阿片戦
争」を観たことが書かれている。

（昭和） 平瀬家資料

戦地からの手紙（高橋菊次郎から平瀬せつ子宛）

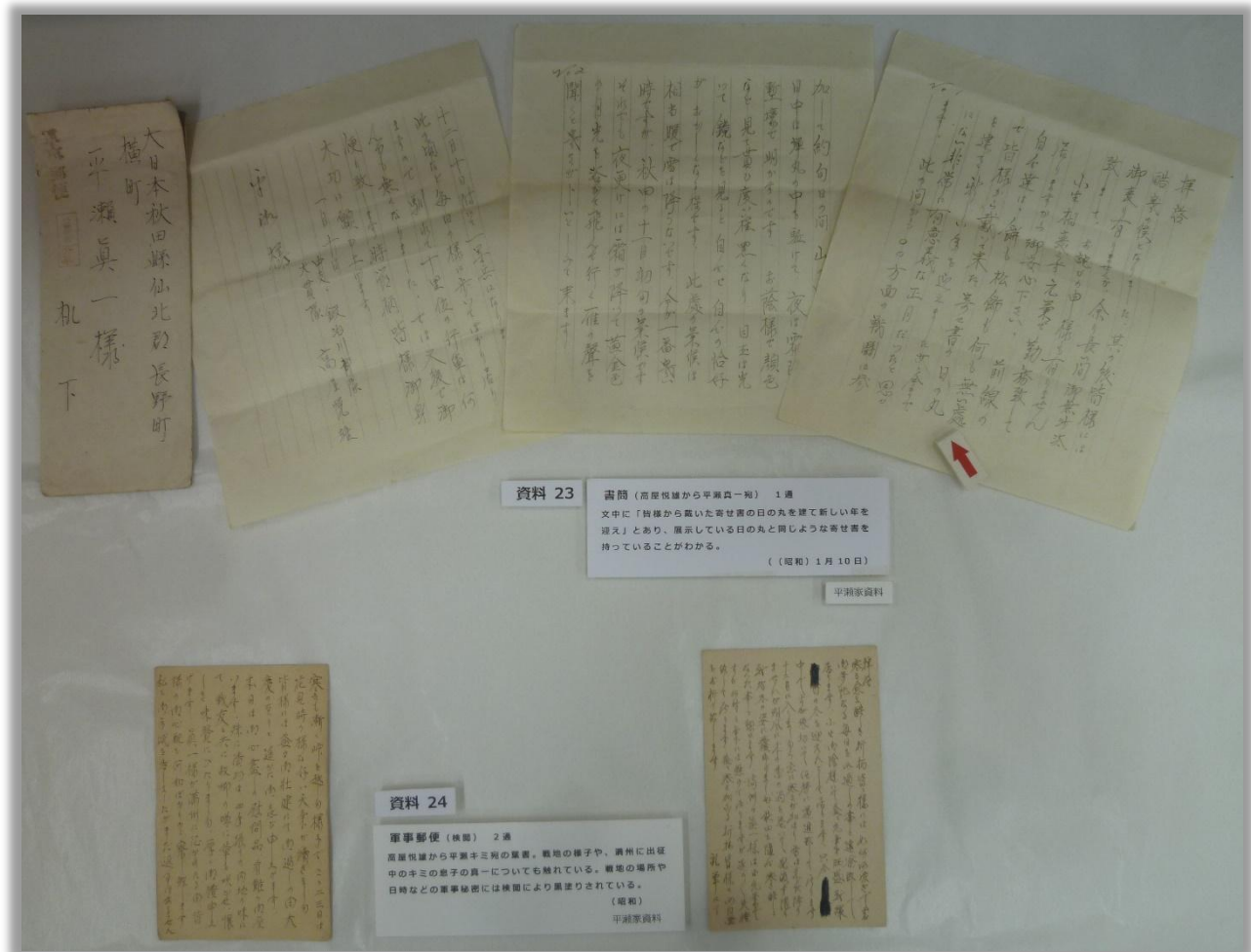
満州第 207 部隊宮沢隊に所属していた高橋から平瀬せ
つ子に送られた手紙。同時期に満州に出征した平瀬真
一の様子なども伝えている。満州の暑さや野戦娯楽会
開催のことなど、平常の様子が伝えられている。満州
事変後、ソ連侵攻までは大きな戦闘はない。

（昭和） 平瀬家資料

書簡（高屋悦雄から平瀬真一宛）

文中に「皆様から頂いた寄せ書の日の丸を建て新しい年を迎え」（赤い矢印）とあり、前ページ掲載の日の丸と同じような寄せ書を持っていたことがわかる。

（昭和）1月10日 平瀬家資料



軍事郵便（検閲） 2通

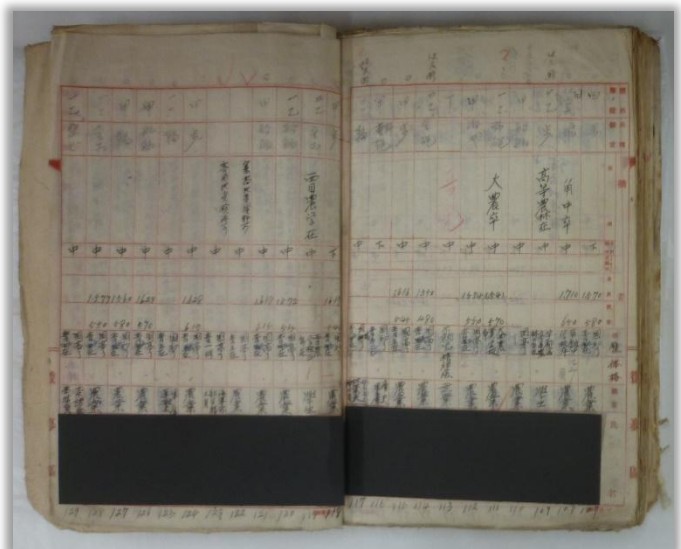
高屋悦雄から平瀬キミ宛の葉書。戦地の様子や、満州に出征中のキミの息子の真一についても触れている。戦地の場所や日時などの軍事機密は検閲により黒塗りされている。

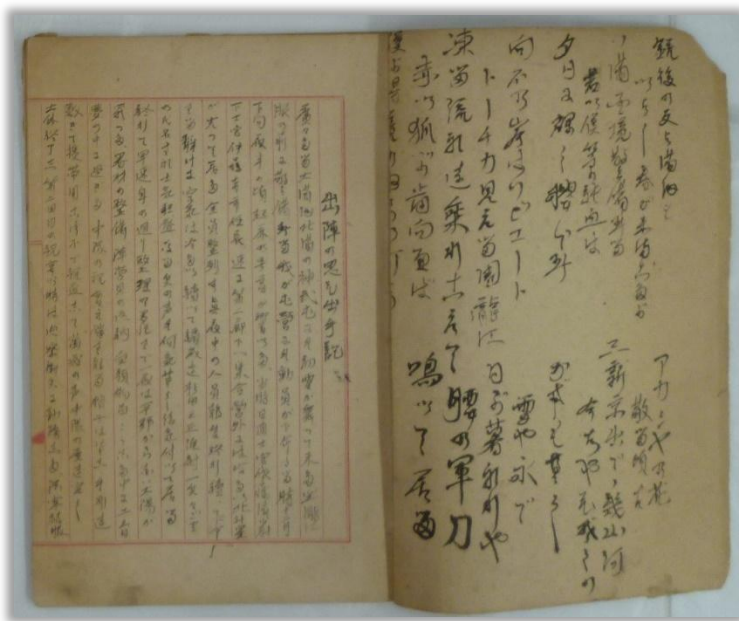
（昭和） 平瀬家資料

壮丁連名簿 長野町役場

壮丁名簿とは、市町村長が毎年1月1日現在の徴兵適齢人口について作成する名簿のこと。その名簿を元に、徴兵のための情報が記録された。

（昭和） 中仙町役場文書

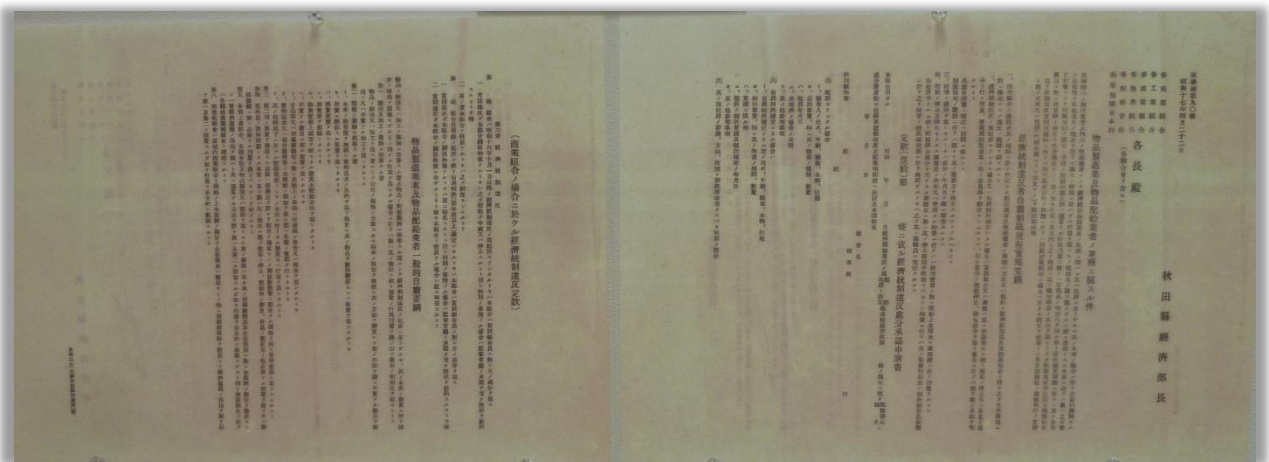




迎春花日記

出征した昭和 15 年からマラリアに罹患して療養のため帰国した昭和 18 年頃までを回顧録として日記にしたもの。満州からフィリピン方面へ転戦した行程や、現地の人びとの様子なども記述している。

昭和 18 年 佐藤徳三郎資料



秋田県経済部長通知

物品の製造や配給、経済統制違反自粛制裁についてなど、戦時下での経済的な規制について、各種組合等に宛てて通知したもの。

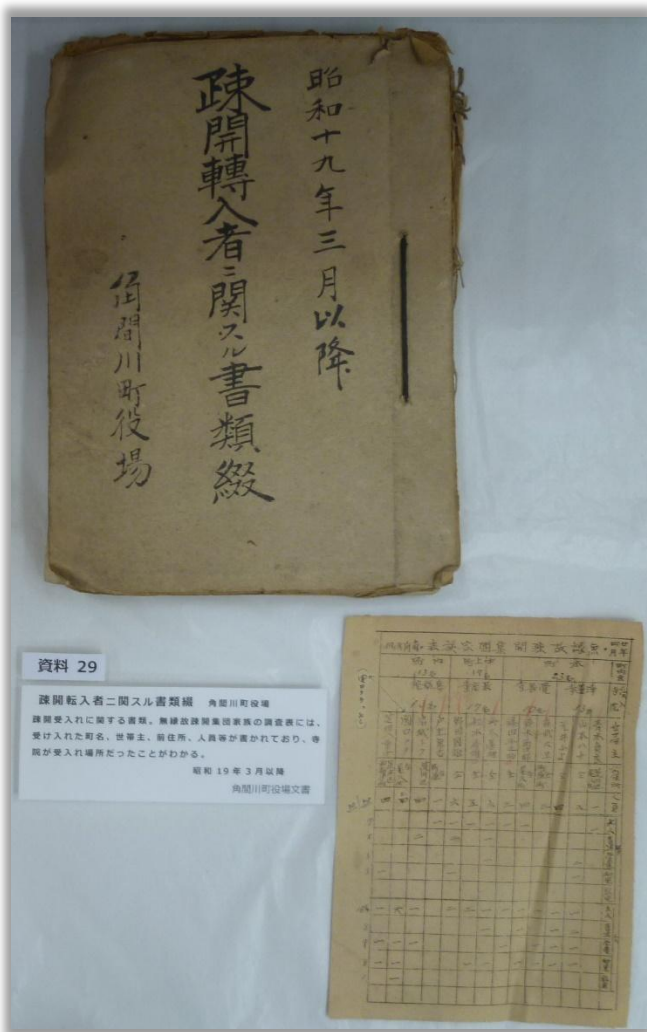
昭和 17 年 4 月 12 日 平瀬家資料

防空施設関係書類 角間川町役場

防空に関する通知や空襲に備えた製品の紹介などの書類を綴ったもの。「愛国防空カバー」という名称で、電灯に取り付けるカバーが規格品として製品化されていた。

昭和 17 年 1 月以降 教育研究所資料





疎開転入者ニ関スル書類綴

疎開受入れに関する書類。無縁故疎開集団家族の調査表には、受け入れた町名、世帯主、前住所、人員等が書かれており、寺院が受入れ場所だったことがわかる。

昭和 19 年 3 月以降 角間川町役場文書



戦死者の葬儀（個人所蔵）

太田町史編さん資料



父を送る（個人所蔵）

太田町史編さん資料